

リレー連載生ヒストリー—温故知新 第14回 小山平六さん（62期）

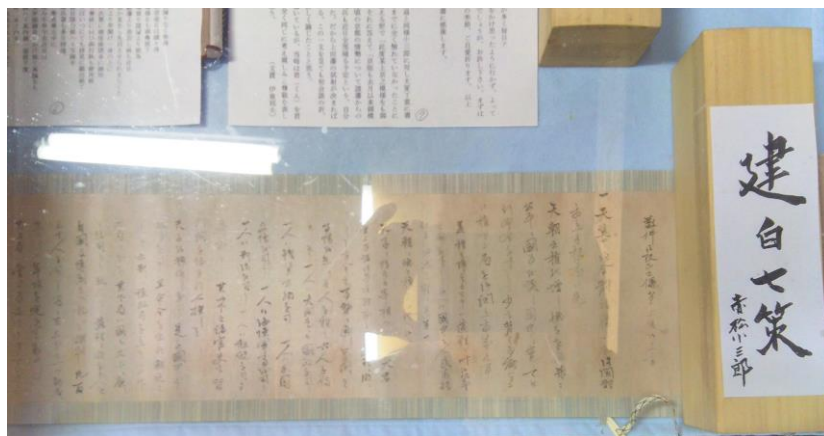
第17代滝澤会長時代に役員として会員交流推進委員に任命され、何か会員交流のことを考えることになりました。

新同好会として、俳句の会「やまびこ句会」を立ち上げ、事務局を務めました。会の名前は講師の姓“こだま”から連想される山彦（やまびこ）としました。また、「赤松小三郎研究会」を先輩のご協力もいただきながら立ち上げ、郷土の忘れられた偉人の掘り起こしに務めました。現在益々存在感を高めているのはうれしい限りです。事務局長を務めています。

年齢がかさんでくると、高校時代のことなど若かった頃のことを思い出すことが多くなります。同窓会の行事などに参加するとその頃の思い出がよみがえります。同窓会の存在は今後の人生で、大切な楽しみの一つでもあります。



2014年62期第47回コンペ（埼玉県美里ゴルフ倶楽部）



赤松小三郎の建白書